IV-JAPAN
NEWS【NO.7】2006.7.15 発行

1. ラオス人調理研修生　2名　招へい

会員の斎藤加代氏の両国にあるマンションが宿舎として提供され、同氏の子息達が経営する２ヶ所のレストランにて、特に調理器具・食器等の衛生処理について研修を行いました。ラオスでは「手ぬぐい」、「雑巾」、「布巾」等の区別が無い為、大変勉強になり、早速ラオスで実行しております。佐復正雄理事の料理教室を主宰している友人達の協力で、日本料理やクッキー等の研修も受けることができました。研修生のノイとニヨッドの二人はエスカレータや動く歩道にびっくりし、当初は言葉も通じない為、ホームシックになりましたが、研修を終える頃には「帰りたくない」と残念そうでした。(株)資生堂の池田敏秀氏のご好意により、日本滞在最終日は千葉の水郷の花菖蒲を訪問後、佐原の日本旅館に宿泊して、日本の初夏を満喫し、帰国いたしました。全日程（5 月 17 日～31 日）を斎藤加代氏と佐復正雄理事の全面的なご協力により、研修を無事に行うことができました。有難うございました。尚、通訳は資生堂関連会社の研究員のマニソンさんがボランティアで協力しました。

後列右より佐複正雄氏、池田敏秀氏、一人おいて斎藤加代氏、藤田廸枝副代表、前列右マニソン氏

森千秋先生（料理教室主宰）よりお寿司、豆腐の煮物、えびパンを学ぶ研修生

2. ＴＶ東京「関口智弘の地球サポーター」

テレビ東京の4月28日の「関口智弘の地球サポーター」で当会のヴィエンチャン都職業訓練所が紹介されました。今回、日本に実習の為に招へいされた調理のオン・ザ・ジョッブ・トレーニング(0JT)の訓練生ニヨッドの生活を紹介し、早朝から両親の畑仕事を手伝い、それから 40 分かけてバイクで通学し、途中市場で食料の仕入れを行い、訓練所の厨房やレストランでの接客風景等が紹介されています。同時に美容コースや縫製コースの 0JT も紹介されました。

3. ノンドン村小学校建設中

大阪のジャパン･ヨガ･カレッジ(株式会社ＪＹＣ)の寄贈によりノンドン村に小学校を建設中です。ヴィエンチャン都のはずれ約 56 キロの地点でモン族 60%、ラオ族 40%の村です。ＪＹＣの代表によりますと、当会のホームページを見て、学校建設を職業訓練で行っているのは当会だけで、それに感銘を受けたとのことです。現在 15 名の村民が建設に従事し、4ヵ月後の完成後は日本の左官の技術が身につき、自分の家や職業として住宅建設もできるようになります。机や椅子、窓やドアーの学校家具類は当会の家具訓練コースで製作しました。8 月初旬には完成予定で、9 月 1 日の新学期に向けてハンドオーバーの予定です。

4．シェンクアーン県ナーパー中高等学校松島図書館事業

松島精一氏の支援によりシェンクアーン県カム郡ナーパイ村ナーパー中高等学校に、図書館を建設しました。ナーパー中高等学校は 28 カ村から全校生徒数約 1000 人が通っています。図書館の完成後、同学校の教師 24 名を対象に 3 日間の図書館運営ワークショップを実施し、参加した教師は読書推進を目的に、読書の大切さ、図書館の運営のノウハウ等を学びました。NGO「ラオスの子供」より本 60 冊の支援を受け、新たにオーストラリアの NGO 団体 ABV（Australia Business Volunteer）から 2003 年、2004 年にシェンクアーン県に家畜飼育専門家として派遣されたピーターロビンソン氏より、英語の本が送られる予定です。この、図書館は村の小学校を含め、郡レベルでの読書推進を目的に大人や子供に関わらず図書館を利用できるため、人々が本に親しむ機会が増え、読書に対する関心が高まることを期待します。

5．シェンクアーン県事業(郵政公社ボランティア貯金)

2 月 13 日から 3 月 22 日まで、シェンクアーン県で村民の生活改善を目的に栄養と料理、ジェンダー、収入向上を図るマーケティング、桑と養蚕のワークショップを実施しました。特に、マーケティングは当会が初めて実施したワークショップです。内容は村民個人レベルを対象に家計及び会計簿のつけ方、家畜や農作物の価格の設定等を行いました。また、村レベルにおいてはカム郡サン村、ナーパイ村、ノンヘト郡タムスア村、パーサイ郡グア村の 4 か村に銀行を設立しました。銀行の運営は銀行のメンバー（家族単位）が出資する元金で行われます。メンバーは 1 年後に元金に利子をつけた配当を受け、村民は貯蓄の重要性を学ぶことが出来ます。ローンを借りる村民は資金をどのように活用するのか実行委員会に説明し、返済期間を委員会との話し合いで決定します。銀行の設立により、低利子でお金を借りることが出来るため、村民は事業の拡大、事業資金の確保が出来、収入向上に大きな役割を果たします。また、事業の展望として村民の自立促進へのモティベーションを高め、村全体の発展に寄与し、また村の相互扶助システムの向上を図るとともに、外部から高利で借りる必要がなくなります。

＝銀行の仕組み＝

1. 元金を出資する銀行のメンバーを募る
2. メンバーの出資金の上限設定（月約 1000 円～50 円）
3. 銀行の運営委員を村民の選挙により選出
4. 利子、返済期間の設定。利子は借りたローンの使途(家畜飼育や農業－約 1.5%～2%、病気や怪我等の緊急時－約 0.6%)により設定。
5. 銀行の利子の使い道を決定（会員への配当、村の事業運営費、子供の教育費、実行員会の運営費）
6. 1 年後利子の利益の一部がメンバーに配当される。

完成した松島図書館

会計簿のつけ方を教える指導員

6. 安達典生　チャリティコンサート

6 月 10 日古賀政男 音楽博物館で開かれたシャンソン・コンサートに主催者の安達様のご協力で、ＩＶ国際協力事業の為に貯金箱が置かれ、冨永代表がステージよりラオスへの国際協力の呼び掛けを行いました。集まった募金は 135,603 円になり、同日冨永代表に手渡されました。皆様ありがとうございました。なお、安達典生氏はラオス事務所の松島準之介の叔父さんにあたり、姉夫婦がラオスに図書館を寄贈したことを聞いて、自分も何かお役に立ちたいとこの日のコンサートになりました。同氏の本業は郵便局員で、近々に勇退してシャンソン歌手として専念する予定で、将来はラオスでもコンサートを開きたいと抱負が語られました。

7. シェンクアーンへ農業指導者　後藤生光氏を派遣

JICA の NGO 技術者派遣制度を利用して 5 月 15 日から 3 ヶ月間ラオス　シェンクアーン県へ後藤氏を派遣しました。当会は 1996 年よりシェンクアーン県で、山岳民族女性の為の職業訓練を開始し、約 1100 人が縫製､織物と識字教育を受けました。2002 年からは農村開発に着手し、米銀行､家畜銀行､養蚕等を行っており、これらは松島準之介が担当しております。山岳民族生徒寮、ナーパイ小学校建設を始め、今年は松島準之介の両親の支援で図書館も建設されました。後藤氏は 30 数年前にラオスに青年海外協力隊員として農業指導に従事し、最近は国連ボランティアとしてシェンクアーン県で麻薬撲滅の為の代替作物指導等を行ってきた専門家です。ラオス語ができ、地元の人ともスムーズなコミュニケーションが可能であり、ラオスに於ける長年の経験から的確な農業指導ができることから、大変喜ばれております。

8. 第３回　通常総会開催(於 さいたま市生涯学習センター)

6 月 3 日に通常総会が開催され、以下の事項について審議を行い承認されましたことをご報告いたします。

・2005 年度　事業報告・決算報告 1550 万円(承認)　　・2006 年度　事業計画・予算 5300 万円(報告事項)

・認定ＮＰＯ法人申請(報告事項：来年度、取得に向けて準備)

＜2005 年度事業報告概要＞

1. 日本全国より奨学金ドナーを募り、タイの子供たちとラオスの職業訓練生 202 名に奨学金を支給し、教育の底上げに寄与した。
2. ヴィエンチャン職業訓練所では調理・縫製・理美容 3 コースの基礎コース、ハンディキャップ・インターナショナル(仏)と共催で聴覚障害者のための縫製コース、(株) 資生堂の支援で理美容基礎コースを開催。
3. シェンクアーン県農村開発事業：生活改善のための飲料水パイプ敷設、経済的自立のための米・家畜銀行の実施運営、家畜飼育、果樹栽培等の農業指導を実施した。松島ナーパー中等高等学校図書館を建設。
4. 斎藤加代氏寄付によりヴィエンチャン斎藤タソモ小学校へ井戸を建設。
5. 小学校建設事業：ジャパン･ヨガ･カレッジ（JYC）の寄付により、ヴィエンチャン都のはずれ約 56 キロ地点のノンドン村に小学校を建設職業訓練を兼ねて建設、継続中。
6. 東京・ウイル・ライオンズ・クラブの支援により、シェンクアーン県ラーカイ小・中学校寄宿生（山岳民族）の生活援助として、野菜つくり、養鶏等の援助。
7. 埼玉県国際交流基金助成により、スポーツ教育支援ワークショップを中学・高校教師を対象に実施、スポーツ教育センター校ホンカート中等・高等学校にバトミントンコートを建設し寄贈した。
8. 東芝国際交流財団助成で第 8 回日本文化紹介（着物ファッションショウ）をヴィエンチャンで開催。
9. その他：第 8 回ラオス・ワークキャンプ開催。成人会員スタディツアーを 2 回実施。川口リリアにてラオスプロジェクト報告及びラオス音楽などを紹介。

9. 埼玉新聞、ＦＭ・ＮＡＣＫ5 が当会のヴィエンチャン職業訓練所を取材

埼玉新聞

(3)　第3総合　2006年(平成18年)4月19日(水曜日)

ラオスで活躍する人々 005

JICAの技術協力

国際NGOの冨永さん(さいたま市出身)

何よりも職業訓練を

職業訓練を通じて人材育成に尽力するIV-JAPANの冨永代表

当会のヴィエンチャン都職業訓練所を埼玉新聞と FM NACK 5 が取材で訪問し、4 月 19 日付けの埼玉新聞に掲載されました。

冨永代表のタイでの国際協力活動の経験により、何よりも人材育成が大切であると痛感し、単なる物資・技術提供による援助ではない、「経済的自立のための職業訓練」を目指し、初級・中級の 5 ヶ月間の職業訓練後、学んだ技術・知識を使って実際に一般のお客様を対象に仕事を行う上級コースのオン・ザ・ジョブ・トレーニング(OJT)で経験を積み、そこで得られた収入は訓練生の開業資金に充てられ、起業・就業がスムーズになります。

IV-JAPAN の職業訓練方法はこの OJT を独自に開発したことが成功を収め、多方面から注目されています。

また、今後は寮を建設し、ヴィエンチャンだけでなく、地方都市からも訓練参加者を募りたいとの抱負が掲載されました。

10. 千客万来

色々なお客様が当会のラオス事務所・ヴィエンチャン都職業訓練所を訪問されました。

3 月

- 慶応大学の草野厚教授は院生を伴って来訪、おりしもオン・ザ・ジョッブ・トレーニング（OJT）で日本のお菓子つくりを実習中で、試食されたお団子やおはぎを絶賛され、IV の職業訓練の中で特に上級コースの OJT は大変良い訓練方法と評価されました。

5 月

- 衆議院議員伊藤達也氏が職業訓練所を視察。草の根の人々に大変役立っているのを目の当たりに見て感動した。今後も頑張ってください。と、暑い中汗を拭き拭き、熱心に家具コースも含めて全コースを視察されました。氏の来訪に先立って桂日本大使も見学されました。
- スウェーデンとタイの聴覚障害者協会がセンター見学。昨年は当会で聴覚障害者のための縫製コースを実施し、縫製のトレーナーは手話も勉強したので、スウェーデン人とも手話で会話が出来ました。
- 美容コースを支援している(株)資生堂より守谷常任監査役と大川国際営業本部 A/P 事業部長が来訪。
- 早大の西村正雄教授がワークキャンプの打ち合わせに来訪されました。

6 月

- オーストラリヤ・ビジネス・ボランティアー協会本部より Dr.デーヴィット・ヒルが来訪し、今まで派遣したボランティアーの評価を行いました。毎年多くのオーストラリヤ人が職業訓練や農村開発を支援しています。

7 月

- さいたま市水道局から浅子進氏、木村和夫氏、川島康弘氏の 3 名が訪れ、水道局英語クラブの寄付金$700 を小学校井戸掘りのためにいただきました。

11. ワークキャンプ（8/4～8/7 実施）

今年のワークキャンプには早大の「平山郁夫ボランティアセンター」主催ラオスフィールドトリップに早大生 18 名が参加することになりました。授業の単位として認められるため、IV のシェンクアーン農村開発事業が取り上げられました。昨年は滋賀医科大学の学生 6 名がシェンクアーン県のワークキャンプで調査活動と村泊を経験しましたが、今年もワークキャンプはシェンクア-ン県で行われます。

12. 第9回スタディツアー参加者募集（10/28～11/6 実施）

毎年恒例のスタディツアーを今年は 10/28～11/6 に実施いたします。参加希望の方は日本事務所までご連絡願います。

内容：日本文化紹介のボランティア、IV のプロジェクト・サイト訪問、ヴィエンチャン、ルアンパバン、パクセー等の観光(自由選択)、ショッピング、マッサージ等の自由行動。

期間：10 月 28 日～11 月 6 日（帰路は短縮可能です）

参加費：20 数万円の予定。

13. さいたま市立植竹中学校で国際協力について授業

6 月 8 日　冨永代表がさいたま市立植竹中学校で「ＮＧＯの国際協力活動」について、ビデオ、パワーポイントを駆使して授業を行いました。最後は楽しくランキング・ゲームで開発協力について中学生達に問いかけをしました。とても熱心な生徒たちで短時間でよく理解し、久しぶりに若い人たちに接し、冨永代表もうれしい一時を持ちました。

※生徒たちより以下のような感想が寄せられました。

国際協力 NGO について、冨永氏からラオスについて聞いてみると、日本と比べて大変貧しい国ということや、子供でも働いていることなどがわかりました。自給自足と知ったときは少し驚きました。ラオスのことを少しは知っていましたが、これほどとはまったく思いませんでした。また、大事だと思うことを班で話し合ってランキングをして、まとめました。ラオスのことを知ってから、僕にも何ができることはないかと考えています。あったら、ぜひラオスに協力したいと思います。

僕は、今回の学習で、日本ではあまり知られていない発展途上国の実情を知ることができました。いろいろ驚いたことがあります。例えば、学校が少なく、遠くから通ってくる人たちがいること、また、卒業できる人は少ないということには特に驚きました。また、中学校を卒業した人でも代用教員になれるというのにも驚きました。ボランティアでラオスにいく場合、言葉の問題があることも知りました。ラオスは海がなく、山地ばかりなので、輸送費もかかることから、発展途上国への援助も簡単なことではないんだなと思いました。最後に、NGO の仕事は発展させるためのものを教えている、それは今後の国のためにとてもいいことだと思いました。

先日は、私たちのためにすばらしいお話をしてくださってありがとうございました。冨永さんの話で特に印象に残っているのは、民族衣装のことです。手づくりとはすごいなあと思いました。自然のものを染料として使っているのは地球環境にも優しく、とてもいいと思います。もし、今の日本人が、ラオスに行っても何もできないと思います。なぜなら、今の私たちは電気に慣れ、水があるのが当たり前だからです。こんな私たちに少しでもできることがあれば、それを実行していきたいと思いました。本当にありがとうございました。

14. ラオス事務所スタッフ紹介

ラオス事務所のスタッフを紹介します。特に、トレーナーにおいては 2 年前までは訓練生でしたが、OJT や TOT（トレーナー養成ワークシップ）を経て技術を磨き、トレーナーまでに成長いたしました。

冨永　幸子
代表

松島　準之介
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ

ルアン
ｱｼｽﾀﾝﾄｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ

エイプ
トレーナー（家具）

アモン
トレーナー（理美容）

ブン
トレーナー（理美容）

モー
トレーナー（縫製）

ノー
トレーナー（縫製）

ロッド
トレーナー（調理）

ニョッド
トレーナー（調理）

ノイ
トレーナー（調理）

ケンチャン
庶務

15. JICafe ラオスで IV プロジェクト紹介

JICA が今年の 3 月に情報センターとして JICafe ラオス（ラオス一日本コミュニケーションプラザ）をラオスの首都ヴィエンチャンにオープンしました。このセンターは JICA とラオスで活動する日本の NGO が主体となり日本の ODA 紹介やラオスの開発に関する情報をラオス人や本邦 NGO、個人ボランティアへ提供するとともに、イベントの開催、JICA 及び NGO の活動広報を行っています。また、誰でも気軽に利用できる空間を提供するためコーヒーや紅茶を販売しています。7 月は当会が JICafe の担当で、展示イベントとして小林明子理事の友人の徳永元子氏寄贈の打掛を展示したところ、これは花婿も着るのかとか、値段はいくらとか、多くの質問が寄せられ、着物に関する関心の高さを感じました。また、当会の活動紹介として、OJT（オンザ・ジョブ・トレーニング）の調理・縫製・理美容の 3 コースの訓練生が現在職業訓練センターで提供しているサービスを JICafe でも行いました。調理コースは巻き寿司、おにぎり、おはぎ、また訓練生 2 名が 5 月に日本の研修で学んだお好み焼き等の販売をしたところ、大人気でした。他にも茶道同好会のボランティアによる茶道デモンストレーションを披露し、冨永代表の解説に集まったラオス人は茶道について興味を示し、抹茶とおはぎを試食して大変好評でした。

抹茶とおはぎを楽しむラオス人、
後方は縫製コースの作品

茶道の歴史やラオスとの関係を説明しながら、
話は内掛や着物の説明にまで及んだ

カノック奨学金ドナー紹介（2005/10/14 から 2006/7/15 まで）順不順

稲田雅子(2 口)、松本薫、金指五郎、ガールスカウト千葉 45 団、みどり幼稚園みどり会(13 口)、宮村肇(10 口)、竹中成行、和田冶江、栗原敏子(5 口)、松茂良米子(2 口)、松井芳親、亀島裕子(2 口)、大高巽、ガールスカウト大阪 73 団、藤田カツノ、服部順子、石井直子、古謝哲哉(3 口)、伊藤睦子、伊藤裕子(2 口)、岩月優子、橋本多映子、近藤利雄(2 口)、田中恵子、五十嵐香苗、金戸美知子、森田豊則、久光初枝、佐々木孝子、石井有美、西条喜子、津本容子、上原道子、土屋祥二、濱口敏行(3 口)込山まち子、野口正晴、羽山陽子、松永順平(3 口)、武居近子、白川誠之、片山純子(2 口)、塩川悠子(2 口)、金子澄子、河島一郎、春日曠、蛭間愛子、利根川恵子、藤森修、三沢純子(2 口)、奈良伊世、大野歩・望、大野宏江、佐藤吉秀、大橋國江(2 口)、渡久地澄子(2 口)、伊東慶子、田中兼勝、謝花恵子(2 口)、森典子、藤井清司、村本律子(3 口)、荒井みど里、安村美智子、村上淳子(2 口)、斉藤ふみ子、田村福代、小田切智子、森　聰、小泉千春、座安きくえ、戸田昌子、土屋多賀子、長谷川達也、土屋紀子、杉浦美佐子、八木道子、小林愛子、丹羽稔(1 口 3 年分)、小林佳代子、市川交子、廣田康伸、鈴木ミチ(3 口)、宗像邦司、飯田昌美、星野芳朗、小林文子、中村英一、嶋美樹子(4 口)、吉原喜代、菊原享子、賀元澄子、足立毅平、佐藤文子、高石順子、小林明子、渡辺伊久子、比嘉エリ子、木暮秩、国仲ヒデ(2 口)、武藤広子、川合満喜子、根橋淑江、外間邦子、島慶子、ウィメンズめぐろ、佐藤美津子(8 口)、片桐鈴子、時田一枝、原朗子、井上貴美枝

運営・プロジェクト費寄付者一覧
（2005/10/14 から 2006/7/15 まで一万円以下は省略させて頂きます。ご了承下さい。）

川口リリアラオス文化紹介実行委員会 44 万 2,418 円、バンサトリー43 万円、中村千恵子 10 万円、渡久地澄子 20 万円、斉藤加代 20 万 188 円、吉野美智子 10 万円、アジアの子ども 5 万円、宇野薫 1 万円、田中英治 1 万円、㈱資生堂 20 万円、ジャパン・ヨガ・カレッジ 500 万円（学校建設）、土屋エミ子 1 万円、栗林聡 10 万円、ガールスカウト大阪 61 団 1 万円、松島精一 8,000 ドル(図書館建設)、富士ゼロックス㈱5 万円、富士ゼロックス㈱端数クラブ 5 万円、社団法人倫理研究所 10 万円(法人会費)、埼玉県国際交流基金 25 万、東芝国際交流財団 80 万円、佐復正雄 26 万円、吉野貴美子 2 万円、安達典生 13 万 5,603 円、松谷富美 2 万円、さいたま市水道局英語クラブ 700 ドル（井戸建設）

皆様のご協力に感謝いたします。有難うございます、今後も引き続きご協力をお願い致します。

幸子のラオス便り　NO.１３　（2006年７月15日）

「ボランティアに支えられた事務局運営」

いま日本ではブログが大流行のようですが、幸子のラオス便りもブログにしてラオス速報としたいと思っていますが、中々仕事に追われ申し訳ありません。

ラオスの真夏は４月で、寒かった日本から戻った時は水のシャワーが気持ちよく、季節の違いを感じさせられました。今は雨季の真っ最中で、雨が降ると涼しく感じられます。7月10日は「カオパンサー」といって、雨安居（うあんご）入りの儀式がお寺であり、たくさんの人がお供えを持ってお参りします。タイでは休日になっているようですが、ラオスは休日ではないので、勤務のある人はお寺に行けないため、自宅でお花を供え、ローソクと線香を焚いて祈ります。私の家の住み込みの若い警備員が、前夜お花を買ってきたのにはビックリしました。社会主義の国でも仏教は生活の一部になっています。この３ヶ月の雨季の間お坊さんはお寺にこもり、修行に専念します。早朝お坊さんたちが托鉢する姿も見られません。この間は結婚式などはつつしみます。日本でも「雨安居」という言葉があるようですが、俳句などの素養のない私には目新しい言葉でした。広辞苑によると語源はインドで、雨季を安居にしたことからということです。アジアは繋がっていますね。

＊　＊　＊　＊　＊

さて、昨年12月より日本事務局人事が一新されました。事務局長としてIT関係の専門家の後藤氏がボランティアで入職してくれました。タイに３年半勤務したこともあり、タイ語も出来る頼もしい事務局長です。主に土曜日の会社休日に事務所に来ています。

同時に会設立当初より長年事務局に居た井藤尚子さんが戻ってきてくれました。パソコンに強く、自宅も歩いて３分程度のところですし、何より会の趣旨をよく理解しているので、半分ボランティアで熱心に仕事をこなしています。定年になった夫まで引っ張り出して、事務所の周りの草取りを定期的にしていただいています。対応の良さは皆さんに定評で、とても気持ちよく働いてくれていますが、週２回(月・木)しか来れないのは残念です。

また、会計担当に片山純子さんがボランティアで的確に会計処理と税関係業務をこなしています。時にはパソコンを持って、小金井の自宅から２時間かけて大宮まで通ってきます。細い体のどこにそんな力があるのか、頼もしい限りです。彼女は長年の奨学金ドナーです。昨年たまたまラオスのスタディツアーに参加したところを私に捕まってしまったとのことです。

もう一人頼もしいボランティアでイベント等のお手伝い、テレカや書き損じはがきの処理、バンサトリー(ラオスの手工芸品紹介）などを引き受けている関矢綾子さんがいます。洋裁は本職はだしでラオスの布でデザインした彼女のバッグや洋服は好評です。バイクで颯爽と何処でも身軽に出かけ、仕事が速いのは見習いたいものです。絵画、カメラ、コーラスと趣味も多彩で、要は時間の作り方が上手で、忙しい人ほど働き者ということでしょうか。

一番長くボランティアをしているのは藤田廸枝副代表でしょうか。彼女なしには日本事務局は動いていけません。潤滑油の役目を一身に背負い、人と人とをつなぐ重要な人です。会創設時より私と一緒に毎年タイやラオスのプロジェクトを訪問し、現場の悩みや問題を一緒に感じ、解決してきました。特に1997年より私がラオス駐在となり、日本人がたった一人の事務所が７年間続き、その間電話でいつも相談に乗って助けてもらいました。仕事の話から個人的なことまで、そばにいるご主人が一番よく知っていることでしょう。今もご主人にはメールを開けてプリントをしていただいているので、会のことも一番理解されているかもしれません。藤田さんの本職は指圧師で、長年専門学校や地域の公民館で教えていらっしゃいましたが、今は「いやしの会笑い療法士」として悩みのある人たちの相談活動に力を入れています。

ラオスに長期・短期在住する日本人や外国人にもボランティアで事務所の仕事を手伝ってもらっています。細野ひで子さんにはパソコンの打ち込み（現在エジプト滞在中)、ビナさんには調理コースの指導等です。過去にも木内和子さん(現在モロッコでシニアーボランティア)、松谷富美さん(現在バンコクで宝石デザイナー)も毎週事務所に来て手伝ってもらいました。皆様に感謝。

＊　＊　＊　＊　＊

私も自分の趣味を生かした茶道ボランティアをしています。日本帰国のたびに姉に稽古を付けて貰い細々と何とか続けてきましたが、表千家から教授の資格を頂いたのを機に、もっと勉強せねばと一大決心をして、たったの月１回ですが、土曜日の午前中を自宅で茶道同好会を始めて１年半が経ちました。年３回くらいの帰国の折にも休まず続けています。ヴィエンチャンには赤ちゃんも入れて日本人は300人弱くらいしか住んでいません。流派を問わずお茶の好きな人が毎回参加して、熱心に通う常連も増え、仕事に追われながらも楽しみになりました。当会には木工家具職業訓練コースがあり、家具の先生は大変器用で、私が写真を見せて簡単な寸法を書くと、立礼卓、置き水屋、置き床など、有難いことに日本と同じようなものを作ってくれます。帰国のたびに茶道具や畳み表（ござ）を持参し、何とか茶室らしい雰囲気でお風呂点前はできます。また、タイやラオスで見たてた陶器、銀器や籠などが茶碗、水差し、建水、花入れまがいになり、手織りの絹地は出し袱紗(ふくさ)として使っています。ヴィエンチャンの朝市(タラートサオ)でベトナムの安南写しの蜻蛉文や赤絵の茶碗と出会い、雲南の中国寺で「禅茶一味」の掛け軸を見つけ、ネパールに滞在した友人からは古銅の薬缶を頂き、アジアは茶道具の宝庫です。茶道のおかげで楽しく生活させていただいております。

MOU(協定書)の締結

ラオス外務省から今後 4 年間の事業実施の許可が下り、7 月 28 日に当会のカウンターパートである教育省と協定書の調印式を当会職業訓練所にて行います。協定書には今後 4 年間の事業目標、事業計画、教育省や各団体の役割分担等が盛り込まれています。この協定書の作成から締結に至るまでは大変な労力と時間を要し、ラオスで活動する他の NGO 団体も苦労しているようです。昨年の 11 月からこの協定書の作成を始め、ようやく締結まで漕ぎ着けることが出来ました。調印式には関係省庁から約 15 人が出席する予定です。

＜サポート会員募集＞

奨学金ドナー及び国際協力費・運営費ドナーを随時募集しています。一人でも多くの皆様のご協力を、宜しくお願い致します。

① 奨学金ドナー　年１口　12.000 円以上
② 国際協力費又は運営費ドナー
　※個人　年１口　3.000 円以上
　※団体及び法人　年１口　10.000 円以上

※申込方法(銀行振込の場合は振込された方の氏名の明記をお願い致します。)

郵便振替　：(口座番号)　00140-5-537168　(加入者名) カノック奨学金
銀行振込　：埼玉りそな銀行浦和中央支店　(普通)　口座番号:5038052
　名義人：(特非) 国際協力 NGO・IV－Japan

事務局より

昨年 12 月より、事務局長になりました後藤です。

1) 今年度より、皆様からご要望のありました。奨学金の銀行振込化を進めて行きたいと考えております。また、奨学金の郵便振替用紙ですが、紛失することがあるとのお話がありましたので、IV-NEWS に同封する様に致します。既に奨学金を振り込まれた方は驚かれると思いますが、用紙の紛失に対応する為に行いますので、ご容赦願います。
2) 理事会にて了承されました認定 NPO 法人申請(来年度、取得に向けて準備)について、ご説明させていただきます。現在は皆様よりご寄付いただいた寄付金については、寄付される方の税金の控除対象となっておりません。この為、幾ら寄付をしても、税金の支払いは控除されませんでした。
当会が認定 NPO 法人となれば、寄付金については、税金の控除対象となります。これらの利点がありますので、来年度の取得に向けて準備をしております。
控除例：年収 500 万円で 2 人暮らし(専業主婦)の場合
税金は年額 242,400 円となりますが、
20 万円寄付すると年額は￥227,200 円の税金
50 万円寄付すると年額は￥203,200 円の税金
3) 最後になりましたが、迅速に情報を送付できることから、電子メールでの連絡を考えております。
皆様のメールアドレスをご教授下されば幸いです。
その他として、ラオスの物品のご紹介も検討しております。会員の皆様には「IV-NEWS」、ホームページ等でご案内させていただきます。
4) また、書き損じ葉書、テレホンカードの送付もお願いいたします。これらで切手を購入することができ、経費削減になりますので、宜しくご協力願います。

【特定非営利活動法人　国際協力ＮＧＯ・IV-JAPAN】

日本事務所
〒331-0058　埼玉県さいたま市西区飯田 426
TEL:048-622-8612 / FAX:048-625-0271
E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp

ラオス事務所
P.O.BOX 7920 VIENTINE, LAO P.D.R.
TEL/FAX: +856-21-26-1240
E-mail: ivjapan@laopdr.com

http://www6.ocn.ne.jp/~iv-japan/